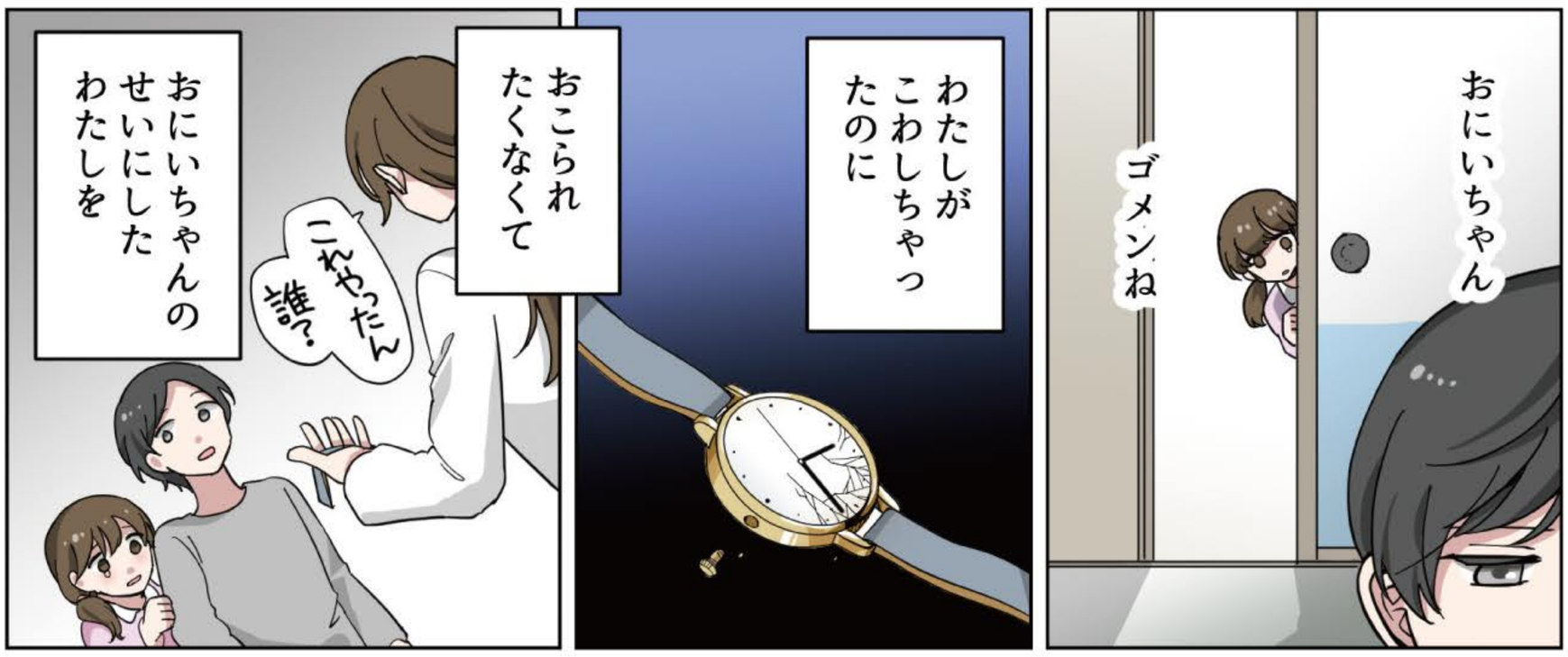
わたしのおにいちゃん

マンガ ／ 鞠音

作　品

幼児部門

おにいちゃん、ゴメンね。わたしがこわしちゃったのに、おこられたくなくて、おにいちゃんのせいにしたわたしを、「ボクがやった。」ってママにかおをまっかにしていってくれた。ないてるわたしに「もう、なくな。」ってあたまをなでてくれた。おにいちゃん、ゴメンね。だいすきだよ。





「わが家のすこやか日記」から学ぶ「夢育※ポイント」

安全安心な人間関係で築かれた家庭は、子どもたちにとって「心の安全基地」となり、非認知能力、夢育のベースにもなります。これを夢育の視点で表現するなら「夢育基地」でしょうか。「わが家のすこやか日記」は、まさに「夢育基地」のエピソード集として親しまれていますが、一方で「そんな余裕はない」「現実はほど遠い」という声も聞こえてきます。そこで、皆さんの「夢育基地」の実現に向けて、少しでもお役に立てればと思い、日記から見える夢育ポイントを紹介します。



夢育アドバイザー（岡山県）　中山　芳一

「わたしのおにいちゃん」（画：鞠音）

ここが夢育ポイント

必ずしも、いつでもかばってあげればよいということではないと思います。時には、本人が自分で失敗や注意を受け止めることも大切です。けれども、今回のように、お兄ちゃんが妹を思ってかばってくれたことには、大きな意味があったのではないでしょうか。妹にとっては、ただ大人から注意される以上に、「お兄ちゃんにそんな思いをさせてしまったんだ」という気持ちが残り、次は気を付けようと強く思えたのかもしれません。また、妹を守ろうとしたお兄ちゃん自身にとっても、「誰かを大切に思って行動する」という、かけがえのない経験になったように思います。かばい、かばわれるという関係は、兄妹だけでなく、友だちや先輩・後輩との関係の中でも、時として人を大きく成長させる力をもっているのではないでしょうか。

※「夢育」とは、一人ひとりの子どもが、自分の中で「夢」を育みながら、それに挑戦していく経験を通して、「意欲」や「自信」などの「自分を高める力」を養っていく教育。（岡山県教育委員会）